

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎



4月の銅の概況及び5月の見通し (4)

予想レンジ		
LMEセツル	8,000-9,000ドル	●
建値	110万円-127万円	●
為替	133円~138円	円高

(1か月間TTM)

■国内概況まとめ

【伸銅品生産】

銅条：前年同月比7ヶ月連続マイナス。2020年の生産量を超えているが、これまでの好調の反動減を大きく受けている。車載向け半導体需要が引き続き好調だが、民生用のデジタル家電向けや自動車端子向けなど需要悪化したまま、まだ回復の兆しが見えない。

黄銅棒：同比15ヶ月連続マイナス。リーマンショック時よりも良いが、2020年の同月実績より悪い。住宅向けは、これまでの海外需要の落ち込みだけでなく、国内需要も落ちてきた。また、水栓金具向けがホテルのリノベーション需要があるが、新規の建設需要が低調である。

【電線】

前年比-2.7%の5万5,600 t。

内訳は国内が-2.7%、輸出が-23.3%。

●銅輸出入概況

日本からの銅スクラップ輸出は、昨年大きく減らした輸出量だが、2023年に入ってその昨午を僅かに上回り、推移している。特にマレーシア向けの輸出が2年ぶりに増加気味である。また輸出平均単価は、高止まりままである。2023年3月の日本からの銅スクラップ輸出量は3万6,184トン、4か月ぶりに3万トンを超えた。また前年同月比23.7%増加し、やはり4か月ぶりにプラスに転じた。

日本から中国向けの銅スクラップ輸出は、ここ2年間、中国向けの輸出量が大きく減ることもないが、増えることもない。一方、中国に次ぐ輸出量で、2020年前後は、中国向けの輸出量とほぼ同じまで増えたマレーシア向けだったが、2023年に入って徐々に増加してきている。前月に続き今回3月もマレーシア向けの同輸出量が前年同月実績を上回った。これは、2年前の2021年5月以来である。

【輸出】

電気銅は+26.2%の6万7,367 t。

スクラップは+23.7%の3万6,184 t。

【輸入】

電気銅は-63.5%の878 t。

スクラップは-6.2%の1万2,228 t。

【見通し】

【自動車】

3月の自動車生産が+21.7%。4月国内販売台数が前年比+22.3%。3か月連続で生産、販売共に回復の兆しあり今後に期待。

【伸銅品生産】

3月伸銅品生産量の速報値は前年同月比14.9減の5万8,780トンで、4か月連続で6万トンを割り、15か月連続のマイナスとなった。2023年3月の伸銅品は、14品目中全てにおいて前年同月実績を下回った。

伸銅品の需要は、車載用半導体を除き、これまでも2021年まで好調だった分野、IT関連や自動車端子など自動車関連向け、住宅関連、半導体製造装置など設備関連が、次々と悪化しており、これらの多くが回復の兆候が見えていない。

【電線】

前年比-2.7%の5万5,600 t。

内訳は国内が-2.7%、輸出が-23.3%。

前月に続きスマートフォンやデジタル家電の低調の為来月も期待薄。

【スクラップ景況予想】

流通（一次問屋）今月銅建値が104万から一時126万そして121万と乱高下落傾向だった。

前月に続き在庫はスマホ需要低迷からの生産減、発生減から在庫薄。需要面に関しては今月も自動車生産販売の回復から一定の需要は出るがスマホ需要の回復が遅れているため需給は緩む。

【LME・為替予想】

今月は以下の項目に左右される。

①米の金融政策、②中国景気回復の動向。

①に関しては、ISNやPPIを見る限りインフレは抑制されている感じも受けるが当局者の見解を見る限り利上げ停止は考えに難い。一方で米銀行破綻に伴う金融危機も台頭してきており、景況感指数や雇用統計を見ながらの対応になると思われる為、6月の利上げが最後になるのではないかと？

②に関しては、中国の国内GDP1-3月期は+4.5%と4%程度を見込んでいた市場予想を上回るペース。

ただ欧米の景気減速への懸念などを受けて輸出は去年の同じ時期と比べて+0.5%と、伸び悩んでいるほか、中国国内の自動車販売は景気対策として行われていた政府の購入支援が終了したことを受けて販売がマイナスであることから一方的な回復はないとの見解。

これらを踏まえた5月の銅価格は8,000-9,000ドル（セツル）との予想。

ドル円値は133円~138円（TTM）台を予測。

銅建値に関しては110万-127万円程度と予測している。

（「4月の銅の概況及び5月の見通し」おわり）

日刊金属

外電記信料
(税込)

6カ月:46,200円

12カ月:92,400円